

令和5年度小学校及び中学校各教科等教育課程研究協議会報告書
【 小学校 特別活動 】

【報告書のポイント】

これからの時代を生きる子供たちに必要な資質・能力を確実に育成するために、

- ・ ウェルビーイングの要素に着目した特別活動の指導を行う。

=身近な学級生活から学校生活、地域、社会と展開すること

- ・ 小学校内及び小・中学校間で、「思い」と「ねらい」と「指導方法」を共有する。

=義務教育9年間の系統性を意識した円滑な指導の接続を行っていくこと

所 属 名 上北教育事務所 教育課
職名・氏名 指導主事 丸 井 大 輔

1

行政説明

文部科学省初等中等教育局 視学官 安部 恭子 氏

要点

- 1 これからの時代を生きる子供たちに必要な資質・能力
- 2 特別活動において育成を目指す資質・能力
- 3 児童生徒の資質・能力の育成のための小中の円滑な接続

2

I これからの時代を生きる子供たちに必要な資質・能力

3

I これからの時代を生きる子供たちに必要な資質・能力

学習指導要領 前文

(前略) これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童(生徒)が、**自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手**となることができるようにすることが求められる。
(後略)

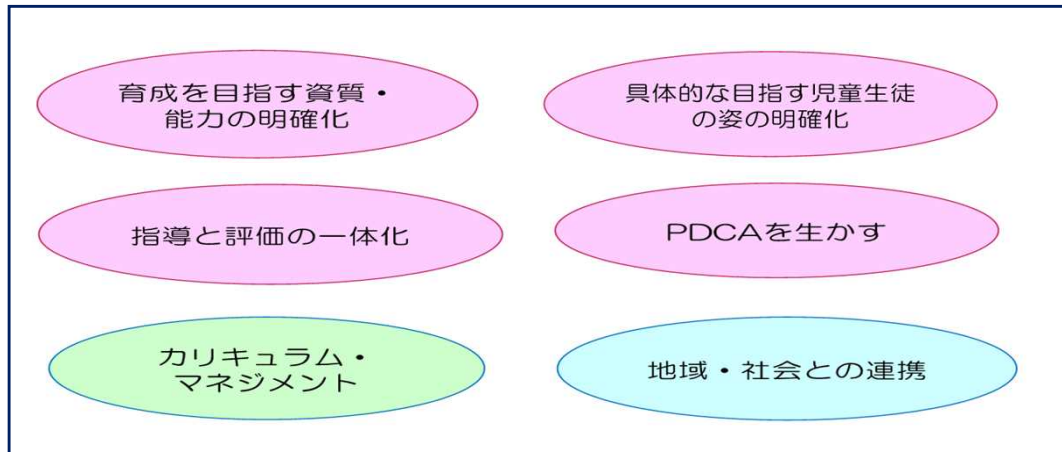
要は、

一人一人の子供が自分のよさや可能性を認識して、多様な人々と協働し自ら人生を切り拓くことができるようにすることが求められる。

4

Ⅰ これからの時代を生きる子供たちに必要な資質・能力

そのためには、特別活動で



5

これらを意識した計画・指導・評価を進めていくことが大切

Ⅰ これからの時代を生きる子供たちに必要な資質・能力

教育振興基本計画

教育振興基本計画

今後の社会の方向性
「自立」「協働」「創造」の3つの理念の
実現に向けた生涯学習社会を構築

創造
自立・協働を通じて変化する
新たな価値を創造していく
ことのできる生涯学習社会

「可能性」と
生涯にわたる

第3期教育振興基本計画

文部科学省

●教育基本法に基づき、政府が
策定する教育に関する総合計画
●今後5年間の国の教育政策全体
の方向性や目標、施策などを定
めるもの。

第4期教育振興基本計画での キーワードは、 「ウェルビーイングの向上」

日本発・日本社会に根差したウェルビーイングの向上

日本社会に根差した
ウェルビーイングの向上

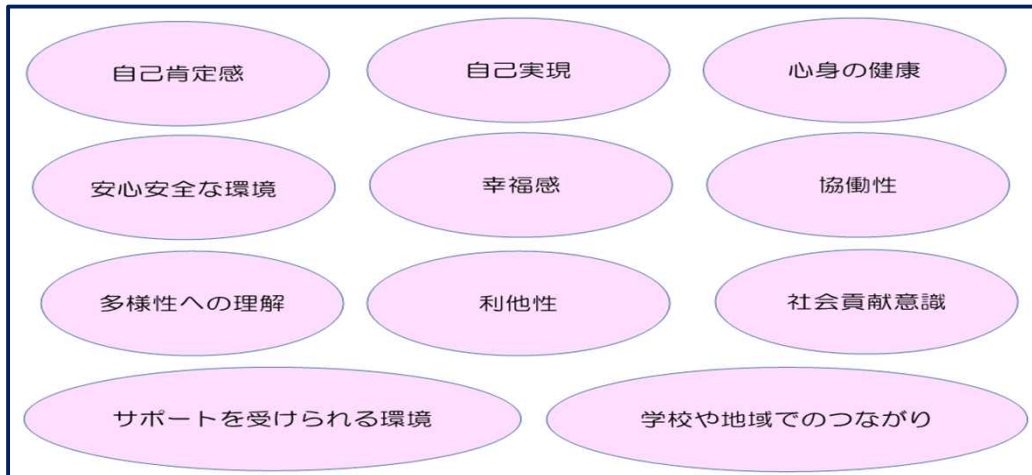
日本の社会・文化的背景を踏まえ、我が国においては、自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイングを教育を通じて向上させていくことが求められます。



6

Ⅰ これからの時代を生きる子供たちに必要な資質・能力

教育に関するウェルビーイングの要素



まさに特別活動の視点や目的と合致する内容

7

Ⅰ これからの時代を生きる子供たちに必要な資質・能力

具体的な姿として

- 自分にはよいところがあると思う
- 将来の夢や目標を持っている
- 授業の内容がよく分かる
- 勉強は好きと思う
- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになる
- 友人関係に満足している
- 自分と違う意見について考えるのは楽しい
- 人が困っているときは進んで助けている
- 学級をよくするために互いの意見のよさを生かして解決方法を決める
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う
- 先生は自分のいいところを認めてくれる
- 困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる

8

I これからの時代を生きる子供たちに必要な資質・能力

今後5年間の教育政策の目標と基本施策（一部抜粋）

教育政策の目標

6. 主体的に社会の形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成

基本施策（例）

○子供の意見表明 ○主権者教育の推進 ○消費者教育の推進
○持続可能な開発のための教育（ESD）の推進 ○男女共同参画
○環境教育の推進 ○災害復興教育の推進

指標（例）

- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合
- ・学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると答える児童生徒の割合

現状課題は、
指標（例）にある
児童生徒の育成

9

I これからの時代を生きる子供たちに必要な資質・能力

学級生活をよりよくするために学級会で話し合っている。

互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。

地域や社会をよくするために何かしてみたい。

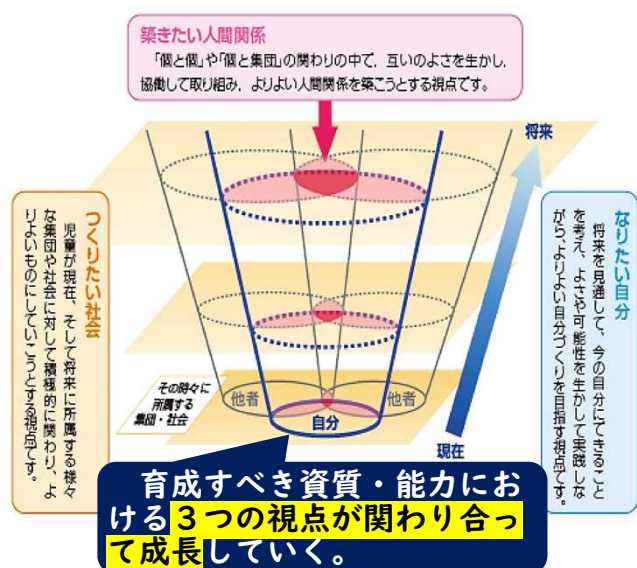
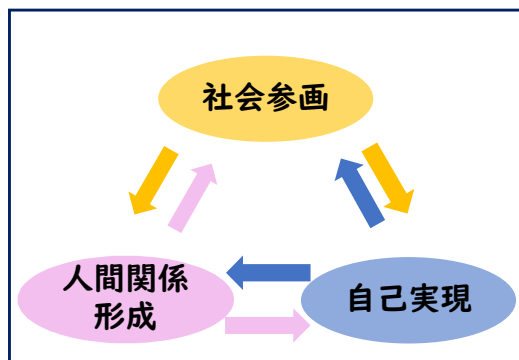
自信をもってこのように回答できる子供たちに育てる。

小学校6年間を通しての学級活動の積み重ねが不可欠。
（その上で、児童会活動、中学校3年間の学級活動、生徒会活動等の話し合いの積み重ねを通して育てる。）

10

11

特別活動において育成すべき 資質・能力の重要な視点



2 特別活動において育成を目指す資質・能力

人間関係 形成

違いを認め合い、みんなと
共に生きていく力を育てます。

「人間関係を築きましょうね。」

ではなく…

子供たちが、「人間関係を築きたいな。」
と思えるような関わり合いを学級内、学校
内で増やしながら育てていく。

13

2 特別活動において育成を目指す資質・能力

社会参画

よりよい集団や社会をつく
ろうとする力を育てます。

「みんなでよい社会を作るんだよ。」

ではなく…

まずは、子供たちが
「よりよい学級生活や学校生活をつくっ
ていきたいな。」と思えるようにする。

14

2 特別活動において育成を目指す資質・能力

自己実現

なりたい自分に向けて
がんばる力を育てます。

「自分らしい生き方を見付けましょう。」

ではなく…

子供たちが、なりたい自分に向けて**前向きに**
なったり、(少しずつでも)**ねばり強く努力する**
力を伸ばすように支援する。

15

2 特別活動において育成を目指す資質・能力

【特別活動における「深い学び」】

課題の設定から振り返りまでの一連の過程を
「実践」と捉え、**基本的な学習過程を繰り返す中で**、
各教科等の特質に応じた見方・考え方を**総合的に働**
かせ、各教科等で学んだ知識や技能などを、集団及
び自己の問題の解決のために活用する。

現状課題は、
「繰り返し」では
なく「単発」に
なっていること。

16

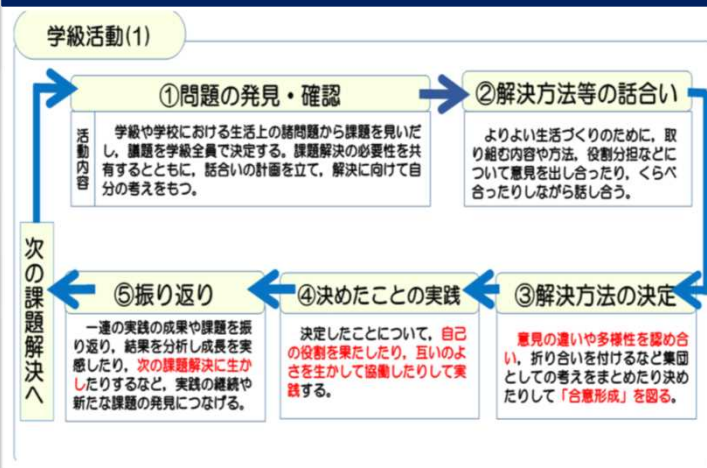
2 特別活動において育成を目指す資質・能力

【特別活動における「深い学び」】

課題の設定から振り返りまでの一連の過程を「実践」と捉え、**基本的な学習過程を繰り返す中で**、各教科等の特質に応じた見方・考え方を**総合的に働かせ**、各教科等で学んだ知識や技能などを、集団及び自己の問題の解決のために活用する。

「基本的な学習過程」とは

学級活動「(1) 学級や学校における生活づくりへの参画」の学習過程(例)



17

2 特別活動において育成を目指す資質・能力

【特別活動における「深い学び」】

課題の設定から振り返りまでの一連の過程を「実践」と捉え、**基本的な学習過程を繰り返す中で**、各教科等の特質に応じた見方・考え方を**総合的に働かせ**、各教科等で学んだ知識や技能などを、集団及び自己の問題の解決のために活用する。

「学習過程を繰り返す」とは

→ **学びをつなげる**ということ。
(例) 成果だけでなく課題が残った場合でも次の課題解決につなげながら展開していく。

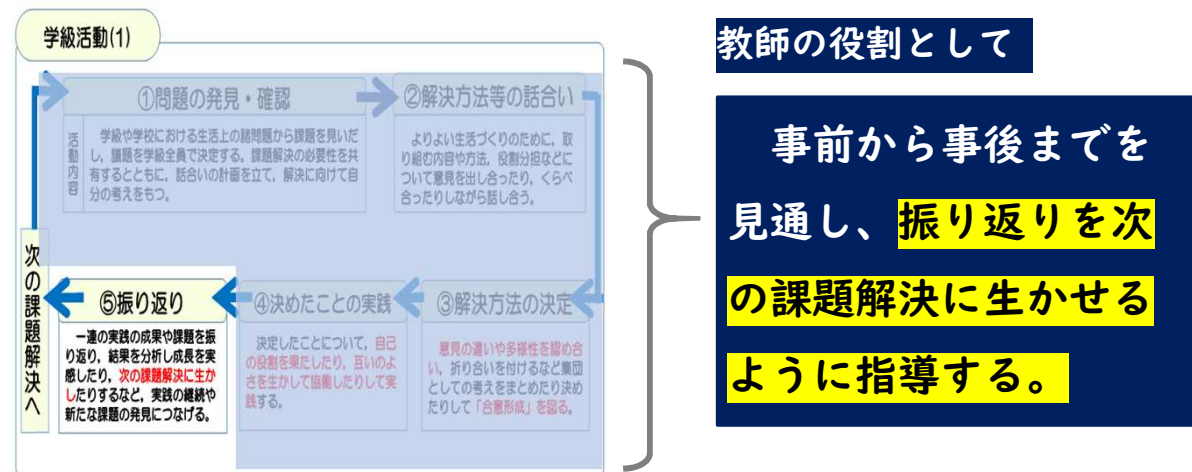
そのためには

それぞれの学習過程で

「どんな力を育てるのか」を常に明確にしておく。

18

2 特別活動において育成を目指す資質・能力



NG例…振り返りを感想記入と発表で終わってしまうこと。
→その活動が「単発」で終わってしまい経験を次に生かそうとする意識が育たない。

19

3 児童生徒の資質・能力の育成のための小中の円滑な接続

20

3 児童生徒の資質・能力の育成のための小中の円滑な接続

【学習指導要領内容構成の改善】

〔学級活動〕の内容の構成については、
小・中・高等学校を通して育成することを
目指す資質・能力の観点から、次のように
系統性が明確になるよう整理した。

(小・中学校学習指導要領解説特別活動編より)

要は、
中学校、高等学校の
内容は、小学校段階
からの積み重ねを前
提として内容が構成
されている。

21

3 児童生徒の資質・能力の育成のための小中の円滑な接続

中学校において、与えられた課題ではなく学級生活における課題を自分たちで見
いだして解決に向けて話し合う活動に、小
学校の経験を生かして取り組むよう(1)の
内容を重視する視点から、(2)(3)の項目
を整理した。

(小・中学校学習指導要領解説特別活動編より)

小学校の現状課題は、
小学校の経験（6年間
の学級活動での話し
合い）の積み重ねと中学
校への接続。

22

3 児童生徒の資質・能力の育成のための小中の円滑な接続

中学校において、与えられた課題ではなく学級生活における課題を自分たちで見
いだして解決に向けて話し合う活動に、**小
学校の経験**を生かして取り組むよう(1)の
内容を重視する視点から、(2)(3)の項目
を整理した。

(小・中学校学習指導要領解説特別活動編より)

「小学校の経験」とは



みんなで、学級や学校の生活の充実・向上のために、
個々の意見をつないで（意見発表、討論ではない）、
「みんなの意見」として決めていくことを繰り返した経験。

23

3 児童生徒の資質・能力の育成のための小中の円滑な接続

個々の意見をつないで

(例)



毎日やるのでは〇〇する意味がうすれ
るし担当の人が大変になると思います。

だったら、毎日じゃなくて、期間を
決めてやるのはどうでしょうか。



今の意見に合わせて、担当の役
割を交代制にすればどうでしょう。

いろいろ試しながら方法を変えてもいいかも。



24

3 児童生徒の資質・能力の育成のための小中の円滑な接続

個々の意見をつないで

反論や否定で
終わるのではなく
互いの意見を
生かすやりとり

(例)



毎日では〇〇する意味がうすれるし
担当の人が大変になると思います。

だったら、毎日じゃなくて、期間を
決めてやるのはどうでしょうか。



今の意見に合わせて、担当の役
割を交代制にすればどうでしょう。

いろいろ試しながら方法を変えてもいいかも。



子供たちが意見をつないで、心をつないでいけるよう
に話し合わせ、継続できるよう引き継いでいく。

25

3 児童生徒の資質・能力の育成のための小中の円滑な接続

児童生徒による自発的、自治的な活動の充実

よりよい学級や学校の生活を築くための問題を
発見したり、集団としての意見をまとめたりす
るなどの話し合い活動や、話し合いで決まったこと
を友達と協力して実践したりする活動



多様な集団活動を通して、互いのよさを見
付け合い、違いを尊重し合い、仲よく
したり、信頼し合ったりする関係を築く

現状課題は、
学校全体での
積み重ね



学校内、小中学校間で学級活動の学習過程を共有することで、
進級後も、進学後も、系統的に資質・能力が育成される。

26

3 児童生徒の資質・能力の育成のための小中の円滑な接続

「決めていくことを繰り返した経験」を得させるために

学校や先生方の3つの共有事項

- ① 「こういう子を育てたい。」という思い
- ② 「今は…だから、こういう力をつけさせる。」というねらい
- ③ 「そのために、こうする(こうしてきた)。という指導方法



これらを全校で、小中学校間で方針、実態、手立てを確実に共有し指導に生かす。

27

3 児童生徒の資質・能力の育成のための小中の円滑な接続

学級活動(1)

自治的能力を育む

自発的、自治的な活動

教師の適切な指導の下

集団としてよりよく合意形成を図り、協力して実践する

適切な議題選定・話し合うことの設定

現状課題として、教師自身の学級活動での介入のタイミングや合意形成のイメージがあいまい



話し合い場面の動画などを教師と児童生徒が一緒に見ながら、よりよい話し合いイメージを学級全体で共有することも効果的な手立てとなる。

28

3 児童生徒の資質・能力の育成のための小中の円滑な接続

話し合い場面の参考動画「小学校特別活動映像資料 学級活動編」



小学校特別活動映像資料

集まった議題案から、みんなが決めてよいことと先生が決めることを区別しましょう

実際の話合いの様子を視聴することで、学級活動（１）の話合いの進め方や教師の支援の仕方を学ぶ

映像資料は、国立教育政策研究所のHPと文部科学省のYouTubeチャンネルから視聴できます。解説パンフレットやワークシートは、国研HPからダウンロードできます。



現学年の話し合い場面を動画に記録しておき、進級後、進学後の担任との引継ぎに活用することも円滑な接続に有効。

29

令和5年度小学校及び中学校各教科等教育課程研究協議会報告書 【 小学校 特別活動 】

- 1 これからの時代を生きる子供たちに必要な資質・能力
- 2 特別活動において育成を目指す資質・能力
- 3 児童生徒の資質・能力の育成のための小中の円滑な接続

御清聴・御精読ありがとうございました

所 属 名 上北教育事務所 教育課
職名・氏名 指導主事 丸 井 大 輔

30